

## 第1回葉山町総合計画審議会 議事録

日 時 平成25年8月26日(月曜日)10時開会 12時5分閉会

場 所 葉山町役場庁舎内 協議会室1

出席者 ○委員

(出席) 臼井会長、田辺職務代理、浦上委員、北村委員、近藤委員、福本委員  
福安委員、藤井委員、宮内委員、横田委員

(欠席) 高梨委員

○町及び事務局

山梨町長、上妻総務部長、伊藤企画調整課長、和嶋副主幹、新倉副主幹  
(株)ぎょうせい

議事日程 1 開会

2 委嘱状交付

3 町長あいさつ

4 委員の紹介

5 会長の選任

6 会長就任あいさつ

7 議題

(1) 総合計画とは

(2) 策定方針について

(3) 第四次葉山町総合計画基本構想町民ワーキンググループ活動報告書について

8 閉会

配付資料 ○資料

葉山町総合計画審議会委員名簿(五十音順)

葉山町附属機関の設置に関する条例(関連部分のみ抜粋)

葉山町総合計画審議会規則

葉山町総合計画審議会傍聴要領(案)

○資料

総合計画について

第四次葉山町総合計画策定方針

(参考資料) 基本構想及び計画期間について(案)

策定体制

葉山町総合計画策定委員会設置要綱

今後のスケジュール

○資料

第四次葉山町総合計画基本構想 町民ワーキンググループ活動報告書（概要版）

○冊子

第四次葉山町総合計画基本構想 町民ワーキンググループ活動報告書

第三次葉山町総合計画基本構想後期基本計画

（開会）

本日は、皆様お忙しいところ審議会にご出席いただき、誠にありがとうございます。私は総務部長の上妻と申します。どうぞよろしく願いいたします。本審議会は、平成 27 年度からの町の最上位計画であります総合計画策定のため、委員の皆さんにご審議いただくものです。総合計画策定に先立ち、葉山町、初の取り組みとして、町民ワーキンググループを立ち上げ、5月26日を皮切りに、葉山町の将来像について参加者 50 名の方々から様々なご意見をいただいたところでございます。本日は、初回審議会となりますので、総合計画策定の趣旨や町民ワーキンググループからのご意見の報告が大半となりますが、ご了承いただきたいと思います。

（町長挨拶）

改めまして皆さん、おはようございます。本当にお忙しいところ、皆さんにお集まりいただきまして、ありがとうございます。今回の総合計画の審議会の皆さんには、私から言わせていただきますと、有識者の方々にお集まりいただいております。そういう意味では、通常は皆さん、お仕事もある中で、日中のお忙しい時間にお越しいただいたことに本当に感謝しております。どうして皆さんにお集まりいただかなくてはならなかったのか、簡単に私のほうからご説明したいと思います。実は今回、葉山町としては初めて町民の皆さんにお集まりいただき、町民ワーキンググループを作っていただき、その中で町民の直接の声というものを集約していただいた方に、今回代表として入っていただいております。なぜこういうことをしなければならなかったのかと申しますと、先日、地方自治法が改正されまして、自治体が定める基本構想というものについて、自治法上はその策定義務がなくなりました。これは国からすれば、自治体が執り行うことは自治体が独自に決めるべきだということで、基本構想についても特に国から法律を定める必要はないと、ある意味、自治体任せにするというような形で、責任が大きくこちらに移ったと考えています。その中で藤沢市などでは基本構想は作らないこととしております。あくまで計画、それも実施計画のみ行政の中で作っていくという方針を明確にされております。それも民間の感覚で言いますと、例えば地域事業計画一本で会社を進めていくということは別にあってもおかしくはないこととは思いますが、私は、役所が民間と大きく異なる場所として、正義が利益や損失で考えるものではなくて、あくまで今住む私たちが将来子どもたちがこの町をどういうふうに受け止めてくれるかといった将来の責任を果たさなければいけないことだと思っています。私たちがここでいかに町税を潤すかということだけを考えて役所を運営するわけにはいきませんし、また将来子どもたちに残すことだけを考えて今の私たちが不利益を被るようなことをしてもいけないというバランスの中で決めなけ

ればならないことを考えますと、やはり将来 10 年、15 年先、本当に多様化して先が見えない時代と言われているんですけど、私たちの責任において町をこうしていくべき、こうしていきたいといった気持ちを持たなければいけないのではないかと思い、葉山町としては従来通り、10 年、15 年計画の基本構想を定め、その中で基本計画を、どのような事業を実施するかという実施計画を定めていこうという方針を決めています。そのためには、従来のように、こうであるだろうといったものを想定の中で定める基本計画を、より実を伴い、よりしっかりした声をいただいた中で定めなければならないといった思いから、多くの町民の皆さんからお声をいただいて、実際に役所が考えている町のあり方と、実際に日々、生活の中で、葉山町をこういうふうにしていきたいという声を今回感じる事ができました。そういった声をしっかりと総合計画に反映させて、私たちが責任を持ってそれを定めていく。そんな形が、今回皆さんにお集まりいただいた大きな理由だとお考えください。役所の中でも町民ワーキンググループを踏まえて、今回審議会の皆さんにもお集まりいただいておりますけども、役所の幹部職員をはじめとして全職員の意見を反映できるような態勢もとっています。従来は審議会から答申をいただいて、私、首長のもとに策定するという形だったのですが、庁舎の中でも策定委員会を設け、多くの職員の声を聞きながら、行政ができるものをしっかり定めた上で実施計画を導いていきたいと考えておりますので、それに向けて皆さんのお声は本当に貴重なものとなります。これから 2 年間、時間としては多少短いと正直私は思っているのですが、2 年かけて町の将来像を定めて、2 年かけて私たちに何ができるのか、しなければならぬのかをしっかりと導き出していきたいと思っておりますので、どうかお力添えのほど何卒よろしくお願い申し上げます。

（委員の紹介）

各々の委員が自己紹介を行った。

（会長の選任）

自薦、他薦ともなく、臼井委員を会長、田辺委員を職務代理とする事務局提案を満場一致で承認した。

（会長就任あいさつ）

昨年の地域福祉計画など、これまで葉山町の福祉系の計画策定をいくつか手伝った縁から、この審議会に参加することになりました。委員の皆さんの活発な議論と事務局のサポートがあってこそ、きちんとした審議会の運営ができていると思っていますので、よろしく申し上げます。

（傍聴について）

次回以降の本審議会の傍聴について、満場一致で承認した。

(議題)

(1) 総合計画とは

(2) 策定方針について

事務局より資料に基づき説明が行われた。

(質疑応答)

委員 策定体制についてですが、今年9月末に町民アンケートを実施して、その後各部のほうで協議をする、各課のほうで協議をする。その時アンケートは1,500人分のうち何通が返ってくるか分かりませんが、それらはすべて部長、課長、そして一般の職員も目を通すことになりませんか。それとも、部長、課長が精査したものを一般職員が見ることになるのでしょうか。

事務局 今までは、例えば福祉、教育のところでの計画を作る時に、初めて総合計画との整合を図っていくというような状況が否めませんでした。そうではなく総合計画はすべての町の個別計画の最上位に位置しているものなので、今後は、すべての職員の意見や知恵を借りながら作っていく必要があると思っています。アンケートの回答については、読みやすいように種別に分類して回答はこういうものだったということをすべての職員が共通して見られるようにして、それらを踏まえ、協議の場に臨んでもらうということにしようと思っています。それから都市計画マスタープランについては、改正年度も迫っていますので、都市計画課の職員と打ち合せをしながら、今回のアンケートの設問を一緒に作っているところです。そのように、なるべく全庁的に職員にも認知してもらい、町民の皆さんの意見に基づいて、将来的に事業立てをしていけるよう、すべての職員がきちんと目を通すようにします。

委員 これから策定スケジュールのいろいろなプロセスを経た上で諮問いただくが、その時に我々が意見を付しても、なかなか大きく変えるということにはできないと思います。その点を勘案して、大きなポイントとして意見を何点か申し上げます。事務局説明で、人口の推移はおおむね見通し通りだが、世帯数の増加の幅が2,000以上の差があり、核家族化の進展ということを指摘されましたが、これは町づくりを考えていく上できちんと論じなければいけないポイントだと思っています。県内でみても、葉山と逗子の空き家率14%オーバーはトップ3に入る状況で、これをどうすべきなのかということをもまず一つ考えなければいけないと思います。総合計画を作る時に、人口の推移をどういうふうトレンドとして見通すのかということが大きなポイントの一つだと思います。33,000と36,000の人口では整備すべき都市インフラも都市計画も変わるでしょう。空き家の状況をどうとらえるかによっても総合計画は変わろうかと思っていますので、その対策として、人口推移の見直しなどにも踏み込めるのかもしれないし、そういう町づくり全般をとらえた議論をした上で我々に諮問いただけるとうれしいというのが一つの意見です。もう一つは、近隣市町との連携・協力ということです。事務局説明や町民ワーキンググループからの意見でも、医療や有害鳥獣対策についての連携など、具体的に出ているものもありますが、今後町の中・長期計画を作る時に、市町の

連携によってどう公共サービスを上げていこうとしているのかという見通しは非常に重要だと思しますので、町民アンケートも含めて、そのあたりのポイントも整理していただけたらと思います。人口の推移が変われば、課題とされているゴミや下水道整備の問題、子育て環境の充実など、すべての都市インフラというものを見直さなければいけないと思います。そのあたりをしっかりリンクした上で諮問いただくと、実のある議論ができると思います。

会 長 審議会の運営の仕方は、自治体と国ではかなり違います。国の審議会ですと、審議会で議論のない項目を答申に盛り込むということは、そもそもさせてもらえない。あるいは法律改正でも、審議会で委員から発言のない項目を事務サイドで法律に紛れ込ませるのはルール違反になります。自治体では、審議会と事務局との関係に委員が言われたような傾向がありますが、できるだけ事務局から出てきたものが絶対ということではなく運営したいと思っていますので、委員の皆さんにもそのつもりでご発言いただければと思いますし、事務局の方にも出した案がそのまま通るということではなく、審議会の中で議論があった上で、形が変わることがあり得るということを理解いただければと思います。あわせて可能な範囲で、議論する上での予測データも含めた情報提供をお願いします。それがなければ基本的なところでミスリードをしかねませんので、ぜひよろしくお願いします。

委 員 第三次総合計画を初めて見ましたが、非常に素晴らしい計画だと思いました。この間の町民ワーキンググループでいろいろなディスカッションをした中で、こういった町にしていきたいという思いが既に網羅されているようないい計画だと思いました。この計画が役場の中でレビューされる予定が11月ぐらいにあるということですが、どのようにレビューされたのかという内容を我々が見る機会はあるものなのでしょうか。

事務局 あまり細かい事務事業レベルではないと思いますが、施策の柱ごとの評価みたいなものを、フォーマットを作って所管している部課に投げていくつもりでいます。それらを施策体系の項目ぐらいで選別、カテゴリー分けし、それを一覧表のような形にして委員の皆さんにお示しすることはできると思います。例えば、行政内部で実務担当者が持っているそれぞれの施策に対する感想は、このようなものだということをお読みいただける資料は作っていかうと思っています。

委 員 町の要請を受けて、今月末までに28の町内会の会長から出される要望書は、アンケート調査とおそらく内容がダブるのでつけ合わせが必要だと思いますが、そのあたりはどのように考えていますか。つけ合わせをしていただいたほうが、より正確な情報が得られると思います。

事務局 町内会、自治会から出た要望書は私たちも見ています。例えば、企画調整課の所管事務でいいますと、広報板がもう一基欲しいといったものなどです。中には、行政で持ちきれない病後の子どもの一時預りとか高齢者の買い物支援は町内会でやってもいいという意見もありました。行政ニーズというものは膨大にあります。少子高齢化で生産年齢人口がどんどん減っていき、税収が上昇していくことは今後あまりあり得ないという中で、行政ニーズはあ

っても、溢れてしまった分というのは、地域の方々と一緒にやっていくしかないと思っています。要望に対し行政がなすべきことはなすべきこととしてあり、これから先も残っていくと思います。ただ総合計画については、総花的なものではなく、地域主導でいろいろなことをやって、それを最終的に行政が補完しバックアップするというような作りになっていくと思います。そのような第四次総合計画にならざるを得ない状況だと思っています。いただいた要望については、課長級以上の職員はすべて目を通しています。その中で行政がなすべきことを判断することになりますが、計画として作っていくには行政だけのワンサイドではできないので、皆さんのお力添えをいただきながら一緒になって町を良くしていきましようというような内容になっていくと思います。

委員 町民の意見を聞くという面では大事かと思いますが、果たしてアンケートの効果は実際にあるものなのでしょうか。例えば、町民ワーキンググループのような活動をまた違ったメンバーで開催した方が、本当の意見が出てくるのではないのでしょうか。私がアンケートを書くとしたら、細かい要望などを書いてしまい、総合計画作成の助けになるのかどうか疑問を感じます。決まっていることなので今更とは思いましたが、ちょっと疑問に思ったので発言しました。

事務局 葉山町は10年後、20年後にどうなったらいいのかという部分で町民ワーキンググループの方々には議論していただきました。その中では、あれもこれもと言ってもお金がないからできないでしょう、といった発言もありましたが、夢を語る場だからお金の話は止めましようということになりました。町民ワーキンググループには1,500人の方々を無作為抽出して50名が参加しましたが、この会議での話がすべてと思ってもらっては困るという意見もありました。今度は町民1,500人にアンケートを送って、また意見を聞くわけですが、そこでは町民ワーキンググループでの意見をもとに設問を作ろうと思っています。幾重にも絞り込む方法でやっていかないと、行政がすべてに携わることはできません。既成事実づくりと言われないようなアンケートになるように知恵を絞っていきたいと思っています。

委員 用途地域の見直しについてはどう考えられているのか。大きな都市計画のことも含めて見直しとしてあれば、示したほうがいいのではないかと思います。それと、計画を策定して目的達成というような記載がありますが、これをどう進捗管理していくのかということです。PDCAのサイクルで評価していくと書かれているが、評価しやすい指標をどう計画に盛り込むのか。進捗管理が分かりやすいような成果、指標となり得るものを記入していただきたいと思います。それと、総花的主義を脱却というようなことが書かれていますが、行政の最上位計画なので、作りとしては現状と課題があって主要施策があって、あとは進捗管理があって目標というような作りになっています。その中で主要事業の部分をもう少し充実させてもいいのかなと。アンケートなどを実施することによって、住民の新しい目線も出てくるのではないかと。総花的というか、今までの計画を脱却するほうが大事なのではないかという意味で、私は主要施策に期待しています。

事務局 用途地域については都市計画マスタープランを作っている都市計画課が所管することになりますが、用途変更はそんなに簡単にはできないということや市街化区域と市街化調整区域とのバランスということもあると思います。そのあたりはまだ白紙です。それから、計画の進捗管理、評価については、悩んでいるところです。例えばある事業を将来的に継続していくべきか否かについては、公平性とか効率性といった視点で事業の評価をしていきたいと思っています。それにより、事業を推進していくことによって得られるメリットがどのくらいあって、やめた場合はどうかとか、一部委託にすればどうかとか、もしくは地域の方々に完全に担っていただくかとか、いろいろな選択肢が協働の観点からすれば出てくると考えていますので、そういうものの評価を行政内部で出来るようにして、外向けに発信していければと思っています。総花主義の脱却については、ある程度、いろいろなものを絞り込んで計画事業を作っていく必要があると思います。絞り込みをする時に、町民の皆さんのための計画なので、事業の評価や皆さんのご意見とかをどのように反映させていくかということが難しいと考えています。基本構想は町の将来像、基本計画は端的に、簡単なものにしていきたいと思っています。それを受けて、こういう事業があったらいいのではないかとすることを検証しながら、実施計画を策定できればと思っています。

委員 地方自治法の改正を受けて、いろいろな総合計画のとらえ方が、市町や県で出ています。成果指標をどう事業と結びつけて示すのかということについては、どこの自治体も苦労しています。そうした中で、すべての課題とコンテンツに対して施策目標を入れるのではなく、いくつかのプロジェクト事業にのみ成果指標を入れるといった取り組みをしている自治体もあります。大いにそんなことを参考にしてもいいのではないかと思います。今後の人口減少と葉山町の高い空き家率というものを考えた時に、新たな都市計画を作るチャンスでもあろうかと思います。今回の町民ワーキンググループを見ても、環境とふれあいながら生活ができるということを葉山らしさと感じていることは間違いないと思います。その中で良好な住環境と自然環境が共生するという意味では、田園都市計画構想のようなものも検討していいのではないかと思います。どれもこれも総合計画に入れられるとは思いますが、都市計画もこういう観点で見直していくようなことが、中長期計画ですからあっていいのではないかと思います意見を申し上げました。

会長 これは先に向けての意見として、直接ここで事務局に答えていただく必要はないと思います。

委員 人口推計で 33,000 人を平成 27 年の目標にされていると書かれていますが、この目標を具体化するための取り組みはどのような形で行われているのでしょうか。

事務局 インフラの整備ですとか、今後の検討の主たるものになると思います。一例をあげれば、子育てをしやすい環境をつくることや高齢者が自宅ですずと安心して生活できる環境づくりというのも一つだろうと思います。各分野の個別計画の良いところをピックアップしながら、町長、内部の職員、議会と相談しながら作っていききたいと考えており、まだ具体的にど

うかという段階にはありません。

(議題)

(3) 第四次葉山町総合計画基本構想町民ワーキンググループ活動報告書について  
事務局より資料 及び活動報告書(冊子版)に基づき説明が行われた。

会 長 当報告書は、今後行う町民アンケートとともに、計画策定についての議論をしていく際に、その方向性を確認するひとつの大きな材料になるもので、これについて質疑応答の必要はないものと判断します。

(今後のスケジュール)

事務局より資料2の参考資料に基づき説明が行われた。

以上

《閉 会》